

「わせだ日本語サポート」とは？

「わせだ日本語サポート」は、早稲田大学で学ぶ留学生の日本語学習や日本語を使った学生生活を応援するため、早稲田大学日本語教育研究センターに設置されました。ここでは、日本語教育研究科の大学院生スタッフが来訪者の日本語学習に関わるサポートを行います。早稲田大学所属の方なら誰でも利用できます。日本語学習のサポートを必要としている方の来訪をお待ちしています。

「わせだ日本語サポート」でできること

1. 日本語の学習計画に関する相談

日本語学習の方法や計画に関する相談ができます。日本語を勉強しているけどなかなか上手にならない、自分に合った学習方法が見つからない、今後の学習計画を立てたいなど、日本語学習に関して困っていること、悩んでいること、新しくやってみたいことなどがあれば、スタッフが来訪者と一緒に考えます。

2. 日本語学習に関する情報の収集

日本語学習に役立つ様々な情報が入手できます。日本語学習のための教材を知りたい、インターネットで日本語を学習したいがどうすればよいかわからない、国際交流イベントについて知りたいなど、日本語学習に関する情報を入手したい場合、適切な学内の機関やサービス、WEB教材などのリソース情報をわかりやすく紹介します。

3. 日本語に関する質問

「わせだ日本語サポート」では、日本語そのものに関する質問ができます。文法やことばの使い方がよくわからない、日本語の表現が正しいかどうかチェックしたい、日本語で読んだ文章の内容を確認したいなど、日本語に関してよくわからないこと、自信がないことなど、スタッフとの対話を通して様々な疑問の解決を図ります。

このように、「わせだ日本語サポート」では、来訪した留学生一人ひとりの日本語学習の問題を共に考え、その人に合った学習を進めていくためのサポートを行います。継続的なサポートを通じ、自律的な日本語学習が実現できるよう、留学生たちを支えています。



「わせだ日本語サポート」2016年度の利用案内

<p>開室期間 曜日・時間</p>	<p>◆ 春学期：2016年4月6日（水） - 7月26日（火） 毎週火・水・金曜日 12:00 - 17:30</p> <p>◆ 秋学期：詳しい情報は、日本語教育研究センターのホームページをご覧ください。</p>
<p>場 所</p>	<p>早稲田大学 早稲田キャンパス 22号館3階 WILL わせだ日本語サポート室</p>

自分にふさわしい学び方は自分ではわからない？ 早稲田大学日本語教育研究センター 所長 館岡 洋子

みなさんは、すでにいろいろな勉強をしてきていますから、自分にはどんな学び方が合っているかをよく知っているか、思っているでしょう。日本語学習についても、「やはり語学学習の基本は暗記だね」とか、「ドラマを見るのが一番」とか、「まずはテストで高得点を得ること」などなど。しかし、なぜ暗記なのか、なぜドラマなのか、「学び方」そのものについて深く考えてきたというよりも、過去の学習経験からなんとなくそう思っているのかもしれませんが。ここで今までの自分からちょっと離れて、自分にふさわしい日本語学習について考えてみませんか。ぜひ一度、「わせだ日本語サポート」を来訪してみてください。

わせだ日本語サポートでは、日本語学習に関してさまざまな情報を得たり、日本語そのものについてわからないことを質問したりすることができますが、なんといっても大きな特徴はあなた自身の日本語学習についての相談ができることです。日本語教育研究科の院生スタッフたちがみなさんの日本語学習や留学生活について、いっしょに考えてくれるのです。一般的なアドバイスをもらう、とか、何か答えを教えてもらう、というよりも、いっしょに考えてもらうことによって、みなさんはたくさんの新たな気づきを得るにちがいありません。自分にふさわしい学び方は、実は自分だけではなかなかわからないものです。しかし、スタッフといっしょに考える中で新しい発見や気づきがあるでしょう。そのうえで、やはり自分にふさわしい学び方は、自分自身で決めていくことになるのではないのでしょうか。

「わせだ日本語サポート」はこんなところです！

①チラシ・パンフレット



日本語使用・日本語学習等に役立つ学内外の情報のチラシやパンフレットをたくさん用意しています。

②情報・イベント

様々な学内外の機関や留学生・日本人学生の国際交流イベントなどを紹介しています。



④個別対応スペース



来訪者一人ひとりの声に耳を傾け、共に考えるため、それぞれのスペースでスタッフが個別に対応します。(1セッション 45分)

③日本語学習リソースの棚

日本語の学習に関する情報が得られるリソースを用意しています。



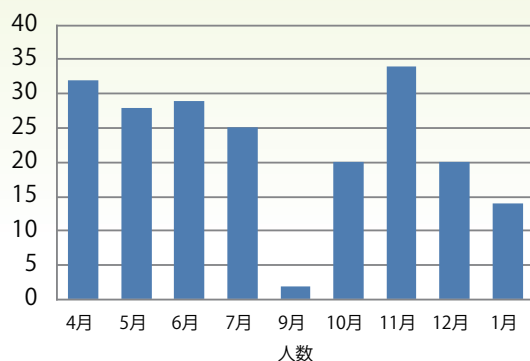
2015 年度 利用者集計

「わせた日本語サポート」には、多くの留学生が訪れます。私たちは、バラエティ豊かなニーズに応え、より充実したサポートを提供するため、さまざまな取り組みに挑戦しています。



1 月別利用者数（延べ人数）

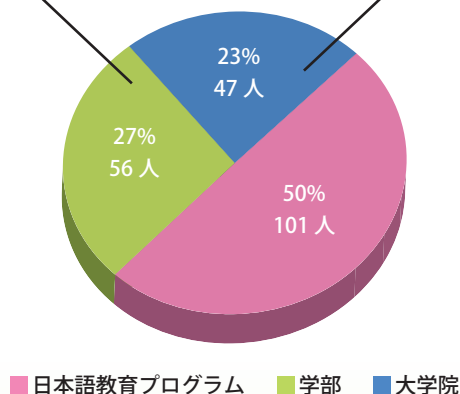
月	人数
4月	32
5月	28
6月	29
7月	25
9月	2
10月	20
11月	34
12月	20
1月	14
合計	204



開室期間：
2015 年 4 月-2015 年 7 月
2015 年 9 月-2016 年 1 月
開室曜日：
火曜日・水曜日・金曜日
開室時間：
12:00-17:30

2 所属別利用者数（延べ人数）

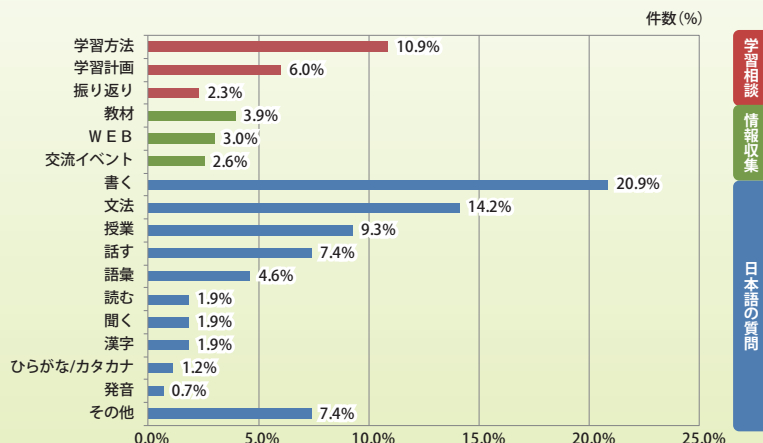
区分	人数
国際教養学部	43
政治経済学部	6
創造理工学部	2
法学部	1
文学部	1
商学部	1
基幹理工学部	1
先進理工学部	1
合計	56



区分	人数
日本語教育研究科	15
政治学研究科	9
経済学研究科	4
文学研究科	3
社会科学研究科	3
アジア太平洋研究科	3
法学研究科	1
教職研究科	1
国際コミュニケーション	1
ファイナンス研究科	1
スポーツ科学研究科	1
創造理工学研究科	1
研究員	2
その他	2
合計	47

3 相談内容（延べ件数）

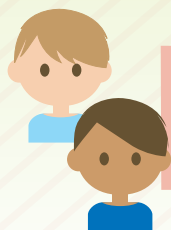
学習相談		情報収集	
学習方法	47	教材	17
学習計画	26	WEB	13
振り返り	10	交流イベント	11
日本語の質問			
書く	90	聞く	8
文法	61	漢字	8
授業	40	ひらがな / カタカナ	5
話す	32	発音	3
語彙	20	その他*	32
読む	8	合計	431



*日本語能力試験や履修相談、就職活動や大学院進学に関する相談など

「わせだ日本語サポート」における対応事例

事例 1



友達がほしいんですけど、どこに行けば友達が作れますか。

友達ですね。
友達と一緒にどんなことをしたいですか。



友達と一緒に日本語を話したり、会話の練習をしたりしたいです。

日本語を使って交流したいんですね。国際コミュニティセンターの「日本語ペラペラクラブ」はどうですか。



私は日本語で話すだけでなく、いろいろな人と楽しく、長く交流したいです。

サークルに入るのはどうですか。定期的にいろいろなイベントも開催されていますよ。



事例 2



なかなか日本語で話すことができなくて……。でも、ゼミや授業は全部英語なんです。

つまり、日本語で話す機会を増やしたいということですね。自分ではどんなことをしていますか。



今、地域の日本語教室に通っているんですけど、私にはちょっと合わないなと思って……。

そうなんですか。何が合わなかったのか聞かせてもらえますか。



私は、日本語で話したりしながら覚えるのが好きなのですが、日本語教室では文法の説明が多くて、あまり興味がもてなかったんです。

それでは、あなたに合った日本語で交流する活動と一緒に探してみましょう。



事例 3



あのう、日本語の文章を書いたんですけど、ちょっとチェックしてもらえませんか。

どのような文章ですか。



日本語の作文なんですけど、言葉の使い方には自信がなくて……。

じゃ、一緒に相談しながら完成までの計画を立てて、より分かりやすい作文にしていきましょう。



私は就職活動のためのエントリーシートを書いてみたんですが……。

日本語に関する相談ならここで一緒に考えましょう。内容上の相談ならキャリアセンターで専門スタッフからアドバイスがもらえますよ。



卒論の第1章を書きましたが、こんな形式でいいかどうか分からなくて……。

学術的文章の作成ならライティングセンターで相談するといいですよ。



事例 4



一生懸命勉強しているんですけど、日本語が上手にならないんです。

日本語を使って、どんなことができるようになりたいですか？



日本のアニメを見て分かるようになりたいんです。

今、どんな勉強をしているんですか？



毎日、教科書を読んでいるんですけど、いい学習方法がわからなくて……。

じゃあ、好きなアニメを使った学習方法や学習計画と一緒に考えましょう。



詳細事例① Aさんの事例

学部3年生。卒業後、日本での就職を考えているが、敬語が苦手で不安を感じている。敬語を上手に話せるようになりたいと思って来訪した。

初回の来訪

S：スタッフ、A：来訪者

【問題意識を探る】

来訪者もまだぼんやりとしたイメージであるため、話す中で問題意識を探る。

【問題点を掘り下げる】

なぜ完璧な敬語使用にこだわるのか、不安を感じる背景を探る。

【問題意識を明確化する】

目標を明確にした上でもう一度自分の問題をとらえ直せるよう、働きかけを行う。

【リソースを紹介する】

必要な情報が得られるリソースにアクセスできるよう導く。

S：具体的にどんなことが不安なんですか。

A：面接する時や会社に入った後、たくさん敬語を使うと思いますが、今、全然上手に使えなくて……。

S：そうですか。じゃ、こんな敬語を使えたらいいなあと思ったことはありませんか。

A：日本人みたいな完璧な敬語。

S：完璧な敬語？ なぜですか。

A：日本で就職できればいいなあ、と思って。

S：ああ、日本で就職したい、日本語を使って仕事がしたいと考えているんですね。

A：はい、就職のことはまだ詳しくわからないですが、敬語が大事だと聞きましたから。

S：まずは、日本で就職することに対する理解を深めてみたらどうでしょうか。キャリアセンターに行けば、就職に関する様々な情報がもらえますよ。それを詳しく理解した上でそのために必要なことや、自分の得意なこと・不安なことなど、一緒に考えましょう。

A：はい。1回行ってみます。

S：行ってみてどうだったか、またぜひ教えてください。

Aさん、キャリアセンターにアクセスし、情報を入手。

3週間後、2回目の来訪

【振り返りを行う】

前回の相談後、来訪者がどのような行動をし、現在どのような状態にあるのかを振り返ってもらい、情報を共有する。

【来訪者自身の目標を明確化する】

目標を来訪者自身が明確化できるようにする。

【リソースを紹介する】

スタッフ自身の就活経験を開示し、リソースの存在に気づかせ、来訪者が自身でアクセスできるよう導く。

S：キャリアセンターはどうでしたか。

A：知らなかった情報、例えば就職のスケジュールとか、面接の注意点などたくさん手に入れました。敬語だけが重要ということじゃないみたいですね。まずは志望動機など考えるためにエントリーシート（以下、ES）を書いてみようと思って。でも、よくわからないので、今日また「サポート」に来ました。

S：AさんはどのようなESを書きたいですか。

A：前にキャリアセンターのスタッフにも教えてもらったんですが、わかりやすく、評価の高いものを書きたいです。

S：なるほど。私も就職活動をしたことがあるんですが、ESを書くために参考図書を読みました。分かりやすく書くためには、いくつかポイントがあるようですよ。

A：おすすめの本がありますか。私もぜひ読んでみたいです。

S：購入するなら、生協に行けばいろいろあると思います、例えば『○○○○』……

詳細事例② Bさんの事例

修士課程2年生。修了後、自分の国で就職する予定。将来、日本語を使うかどうか分らないが、日本にいる間に日本語を上達させたいと考えて来訪した。

初回の来訪

S：スタッフ、B：来訪者

【問題を掘り下げる】

具体的にどのようになりたいのか、スタッフと話しながら明確化していく。

【学習計画作成へ導く】

限られた時間を有効に使って学習するために、学習計画を立てるという方法があることを紹介する。

S：帰国するまでに日本語をどこまで上達させたいですか。

B：なるべく、日本語話者に近いレベルがよいと思いますが、どうでしょうか？

S：その、日本語話者に近いレベルとは、具体的にどのようなイメージですか。

B：日常会話がスムーズにできるとか、テレビ番組を見てすべてわかるとか、そんなイメージです。

S：そういうレベルを目指しているんですね。

B：はい。

S：目標に向けて、何か学習計画がありますか。

B：あまり考えたことがありません。

S：Bさんに合った学習計画を立てることで、やるべきことがはっきりして、時間をより効果的に使うことができますよ。一緒に立ててみませんか。

B：本当ですか。やってみたいです。でも学習計画を立てたことがないんです。

S：それなら、一緒に考えていきましょう。

Bさん、学習計画を立て、実施してみる。

1週間後、2回目の来訪

【振り返りを行う】

前回立てた学習計画に基づいて実行してみてどうだったかを確認する。

【問題を掘り下げる】

うまくいかなかったことについて原因や来訪者の気持ちを把握する。

【励まし、調整を促す】

来訪者の状況や感情に理解を示し、調整できることを知らせる。

S：自分が立てた計画を実行してみて、どうでしたか。

B：うまく行ったところも、うまく行かなかったところもあります。

S：詳しく聞かせてもらえませんか。

B：計画があるので、やるべきことがはっきりしていて、この1週間を無駄にせず、計画どおりにタスクを実行できたことには達成感があります。また、ここで紹介された「NIHONGO eな」のウェブサイトを使うことで、日本語学習が楽しくなりました。

S：それはよかったですね。

B：でも、ちょっときついです。

S：どんなところが大変だと感じますか。

B：計画を立てて勉強するのは初めてなので、先週はなんとか頑張りましたが、今週は続けられるかどうか……。

S：初めてなので大変だったんですね。大変すぎると感じたら、計画を調整できますよ。

B：そうなんですか。ちょっと欲張りすぎたのかもしれない。

S：どのように調整できるか、一緒に考えてみましょう。

日本語学習を自分自身でデザインするための「ポートフォリオ」も用意してあります。スタッフと相談しながら、自分で日本語学習をプロデュースしてみましょう！

——「わせだ日本語サポート」の歩み——

2011 年 3 月	<東日本大震災、授業開始延期>	9 月	「わせだ日本語サポート」(第 6 期) 開室
2011 年 4 月	離日していない留学生のための支援活動開始 (対面、メール、BBS) お茶の水女子大学留学生相談室視察	10 月 - 1 月	『学習者オートノミー—日本語教育と外国語教育の未来のために—』(ひつじ書房) 読書会
5 月	「わせだ日本語サポート」(第 1 期) 開始	11 月	中間振り返りミーティング
7 月	支援スタッフによる事例検討会	2014 年 1 月	神田外語学院 VISTA 視察 学期末振り返りミーティング
8 月	桜美林大学日本語学習リソースセンター視察	3 月	「わせだ日本語サポート NEWS No.3」発行
9 月	「わせだ日本語サポート」(第 2 期) 開室 —支援活動後のリフレクション・タイム導入 —曜日毎のスタッフ・リーダー制導入 —ボランティア制度導入	4 月	「わせだ日本語サポート」(第 7 期) 開室 —「サポート」専用部屋、22 号館 3F WILL 内に移転 —「アドバイジング・ポートフォリオ」の導入・運用
10 月	支援スタッフによる全体ミーティング	5 月	ワークショップ「日本語で読んでみよう」開催
2012 年 1 月	神田外語学院 VISTA (セルフアクセスセンター) 視察	7 月	ワークショップ「にほんご@ラウンジ 話すことを考えよう」開催 来訪者コメントシートの導入 学期末振り返りミーティング
2 月	支援スタッフによる事例検討会 facebook ページ開設	8 月	対話型セッション「学習者の自律的な日本語学習を実現するための支援—『わせだ日本語サポート』利用者へのインタビューから考える—」 (2014 年度日本語教育学会 実践研究フォーラム)
3 月	奥田純子氏講演会「日本語学習アドバイジング—その深さと大切さ—」 「わせだ日本語サポート NEWS No.1」発行 「わせだ日本語サポート・ナビ」作成(以降、学期ごとに適宜修正) 「わせだ日本語サポート」(第 3 期) 開室 —「サポート」専用部屋(22 号館 813)を確保、整備 —来訪者へのガイドライン策定 —週 1 回の定例ミーティングの導入 —業務分担制(リーダー、備品、リソース、集計、広報)を導入	9 月	「わせだ日本語サポート」(第 8 期) 開室
4 月	大学院科目「日本語学習アドバイジング」開設	10 月 - 1 月	『成長する英語学習者—学習者要因と自律学習—』(大修館書店) 読書会
5 月	奥田純子氏による「日本語学習アドバイジング・ワークショップ」開催	11 月	来訪者アンケートの導入
6 月	支援スタッフによる事例検討会	12 月	中間振り返りミーティング 発表「院生スタッフが語る『わせだ日本語サポート』—自律的な日本語学習の支援—」(日研ひろば) 報告「学習者の自律的な日本語学習を実現するための支援—『わせだ日本語サポート』利用者へのインタビューから考える—」(WEB 版『日本語教育学会 実践研究フォーラム報告』) http://www.nkg.or.jp/kenkyu/Forumhoukoku/2014hokoku/2014_SF_sen.pdf
7 月	支援スタッフによる事例検討会	2015 年 1 月	オープン科目「第二言語習得概論」における「サポート」の紹介 学期末振り返りミーティング
8 月	展示「「わせだ日本語サポート」の構築過程における学びと学び—留学生が自律的な学習を実現できる学習環境システムの構築を目指して—」 (2012 年日本語教育国際研究大会 日曜つながる広場) 加藤聡子氏・山下尚子氏(神田外語学院)によるワークショップ「アドバイザー・トレーニング」開催	3 月	「わせだ日本語サポート NEWS No.4」発行
9 月	「わせだ日本語サポート」(第 4 期) 開室 —「サポート」に付随するボランティアによるサービスとして「日本語なんでも相談デスク」設置 —(「サポート」からの発案・要請により)「日本語ペラペラクラブ」(ICC) 開始	4 月	神田外語学院 VISTA 視察 「わせだ日本語サポート」(第 9 期) 開室 —「勤務振り返りシート」の導入・運用 —スタッフの自己研修テーマ設定とテーマに基づく振り返りの導入 —スタッフボードの作成→掲示(次期以降も継続) —日本語センター「サポート」担当(助手)による定例ミーティング議事録の作成
11 月	支援スタッフによる事例検討会	4 月 - 7 月	『留学生アドバイジング—学習・生活・心理をいかに支援するか—』(ナカニシヤ出版) 読書会
2013 年 1 月	支援スタッフによる事例検討会	6 月	スタッフ研修ワークショップ「わたしのビジョンボード」実施
3 月	「わせだ日本語サポート NEWS No.2」発行	7 月	「わせだ日本語サポート」プロモーションビデオ作成(日・英・中・韓) 学期末振り返りミーティング
4 月	「わせだ日本語サポート」(第 5 期) 開室 —「日本語なんでも相談デスク」廃止 —ボランティア制度廃止		
6 月	サポートメモシートの導入		
7 月	学期末振り返りミーティング(支援スタッフが記入する「振り返りシート」の導入)		

2011年にスタートした「わせた日本語サポート」は、今年で6年目を迎えます。

9月 「わせた日本語サポート」(第10期)開室
10月-1月 スタッフ研修「ポートフォリオの作成と運用」実施
11月 ワークショップ「学習アドバイジングを体験しよう!!—自律的学習に向けた学習計画作り—」(早稲田大学大学院日本語教育研究科「日研ひろば」)

12月 話題提供「言語教育における自律学習とその支援を考える—「わせた日本語サポート」における支援実践を事例として—」(言語文化教育研究会 第37回月例会)
2016年1月 学期末振り返りミーティング
3月 「わせた日本語サポート NEWS No.5」発行

ビジョンボード

スタッフ個人のそれぞれの持つ長期的なビジョンの明確化を目的に、ビジョンボードを作成する研修を行いました。対話を重ねる中で、スタッフ間の相互理解が進み、サポートの捉え方がうかがえ、ビジョンボードの効果を実感しました。



わせた日本語サポートのFacebookページ

<https://www.facebook.com/waseda.nihongo.support/>

を通して、学習リソースやわせた日本語サポートなどに関する情報をより多くの日本語学習者に提供することもでき、空間と時間の制限を乗り越えてより効果的なコミュニケーションもできました。



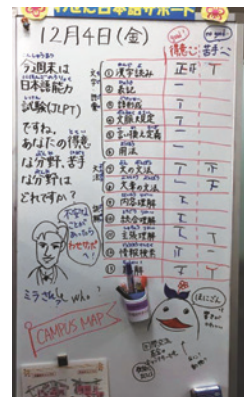
プロモーションビデオの制作

「わせた日本語サポート」を宣伝用ムービーの第二弾を作成しました。様々な方に見てもらえるよう、「日本語、インドネシア語、英語、フランス語、中国語、韓国語」で作成しております。WILLラウンジやFacebookページなどで公開中です。



交流掲示板

留学生とわせたサポの接点を増やすために、秋学期から、サポート室前に交流掲示板を設置しています。徐々に学生の書き込みも増え、一方向的な情報発信だけでなく、双方向的な情報のやりとりが可能になりました。



言語文化教育研究会第37回月例会で発表

★テーマ：「言語教育における自律学習とその支援を考える—『わせた日本語サポート』における支援実践を事例として—」

★日時：12月18日(金) 18:00-19:40

まず、話題提供として、「自律学習」および(自律学習支援実践としての)「わせた日本語サポート」に関し、スタッフから説明しました。次に、話題提供を踏まえ、「自律学習」、「自律学習支援」、「自律学習支援」と自身の教育実践との関係に関し、参加者間で話し合いました。

「日研ひろば」で発表

★テーマ：「学習アドバイジングを体験しよう!!—自律的学習に向けた学習計画作り—」

★日時：11月24日(火) 16:30-18:00

日研生の情報交流の場である「日研ひろば」において、「わせた日本語サポート」の取り組みと日頃の実践を紹介しました。その上で、アドバイジングに関する理解を深めるために、参加者同士で実際にアドバイジングを体験しました。

「わせだ日本語サポート」での経験を振り返って

— スタッフの学び —

「わせだ日本語サポート」を通じて常に考えさせられることは、「サポート」とは何かということです。スタッフとして来訪者にどう向き合うべきか、それをスタッフ間で共有することで新たな視点をいただいています。自律的な日本語学習のためのアドバイジングについて私自身が学んでいる途上でもあります。問題解決のための考え方やリソースを紹介したりもしますが、そもそも正解とは何なのかということも時に考えさせられます。

来訪者がサポート室を訪れる理由は様々ですが、表面的な理由だけでなく、潜在的な理由を引き出すための傾聴の大切さを感じています。来訪者の背景を知り、来訪者自身も自覚していない問題についても掘り下げて寄り添うことも必要だと感じています。

E.Y. さん

「わせだ日本語サポート」と関わり始めたのは2014年の春学期から、今年で2年間です。あっという間で短い期間だった気もしますが、その間で多種多様な日本語学習者に出会うことができ、様々な学びや気づきを与えてくれました。1年目は、来訪者がどのような悩みや不安を持って相談にきたのか、それに対してどのように対応すればいいのかという2点を心がけて、他のスタッフの方々と学び合ったりしながらアドバイジングをやってみていきました。それから、2年目は、この2点の他にも、来訪者と同じ立場から見ることを少しずつ自覚してきました。学習計画に関する相談の場合は、まず自分のも考えながらやってみた上で、何をすればいいか、どうやって上手くいけばいいかなどを痛感できるようになりました。そこで同じ見方から来訪者と一緒に考えるということもさらに前進できると気づいてきました。

F.D. さん

学習者へのセッションのほか、この一年間個人的にもっとも力を入れてきたのは「実践知の共有」です。「日頃積み重ねてきた実践知をスタッフ間でどのように共有したらいいのか」ということを課題として設定し、模擬アドバイジングを行ったり、ほかのスタッフのセッションを分析し議論の場を設けたりしました。

「わせだ日本語サポート」の開設当時からスタッフとしてかわり、もう5周年を迎えました。この5年間、日本語学習に対して様々な悩みを抱えているたくさんの学習者と接してきましたが、私にとっては毎回のセッションがよい刺激であり、成長のきっかけでありました。

これからも、学習者、スタッフ、自分自身全員がお互い成長できる「わせだ日本語サポート」を目指して、学習アドバイジングを続けていきたいと思います。

H.S. さん

「わせた日本語サポート」では、日本語教育研究科の院生であるスタッフが、専門を活かし、留学生の日本語学習サポートを行っています。日本語学習にかかわる相談をもって来訪する留学生と向き合い、また、ミーティングや勉強会を重ねながら、それぞれが多くの気づきや学びを得ており、それを次のサポートに活かしています。

「わせた日本語サポート」は、日本語学習についての悩みを相談する場です。私はサポートを通して、留学生の語る悩みの原因が日本語のためだけでないことを再認識しました。そして、私が原因について専門でないため解決できないという、無力さを実感しました。一方、続ける中で、解決への可能性も見えました。

それは、「繋ぐ」ことでした。初めから問題の所在を日本語だけと捉え、日本語を上手にすることで解決を図るのではありません。対話の中で、原因と一緒に考え、その専門家へ「繋ぐ」ことです。専門家へと繋ぎ、連携することで、より留学生個々の実情に沿った解決に向かうのではないのでしょうか。

留学生の悩みの解決に向かうには、日本語の学習支援だけでなく、他の専門家へと「繋ぐ」必要性と可能性に気づけたことが私の学びです。

K.S. さん

「わせた日本語サポート」にスタッフとして加わってから、一年になります。私にとっては、目の前の課題をより大きな視点でとらえることの大切さに気が付けたことが、最も大きな学びであったと思います。来訪した学生の抱える課題がさまざまであるのと同様に、課題に対する学生自身の向き合い方もさまざまです。学生とのやりとりを振り返ると、自身が直面している課題を客観的に見つめ直したり、違う視点から捉え直したりすることの難しさを感じる場面が多くありました。この難しさは、スタッフとしての課題を持つ私自身も、日々感じているものです。

課題解決に向かう前に、少し立ち止まって、最終的なゴールや今後の生活との接点から、自分自身の中の課題の位置付けを考える。こうした視点を持って、スタッフがセッションに臨むことが、学生の中の自律性を引き出すことにつながるのではないかと思います。

R.Y. さん

二年間スタッフとして活動してきましたが、その中で印象に残った一番のことは学習者の多様性でした。相談内容はさまざまなものがあり、なかには話せるようになりたい、うまく書けるようになりたいといった近い悩みもありました。しかし相談しているうちに形になってくる計画は学習者ごとに違うものになりました。学習者がどうしてそのことについて悩んできたのか、いまどこが問題だと思っているのか、そしてその悩みを解決して何をしていきたいのか、同じような悩みに見えていても学習の流れ、目的によってこれからやることは違います。よく話を聞いて相談に来た学習者の考えが伝わってくると、スタッフとしても学習者にあわせて考えていく大切さを感じました。

T.A. さん



わせた日本語サポート NEWS No.5

編集担当 千花子, 浅野知広, ジャフリ・ファトマワティ, 加藤駿

山澤怜奈, 山下恵美子, 王慧雋

編集協力 木下直子, 鈴木寿子, 古屋憲章

発行日 2016年3月10日

発行者 早稲田大学日本語教育研究センター 所長 館岡洋子

発行 早稲田大学日本語教育研究センター わせた日本語サポート

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-7-14

電話 03-5273-3142

FAX 03-3203-7672

Email cjl@list.waseda.jp

Website <http://www.waseda.jp/cjl/support.html>

Facebook <http://www.facebook.com/waseda.nihongo.support>

- 「わせた日本語サポート」に関する詳細は、上記 URL からもご覧いただけます。
- このパンフレットの全部または全部を無断で使用、複製、転載することを禁じます。